

## ■ 令和元年7月22日 経済労働委員会県内調査

### 1 奈良県産業振興総合センター（奈良市柏木町129-1）

【調査目的】センターの状況について

【調査概要】センターの運営状況について説明を受け、質疑応答・施設見学を実施

<説明の概要>

○沿革

- ・大正 6年 県庁に奈良県工業試験場設置
- ・大正 8年 新庁舎建設（北葛城郡高田町）
- ・昭和35年 奈良県高田工業試験場を廃止し、奈良工業試験場に合併、再び奈良県工業試験場と改称
- ・昭和47年 7月 奈良市柏木町に新庁舎落成  
10月 大安寺町旧庁舎より移転
- ・平成 6年 奈良県工業技術センターに改称
- ・平成10年 知的所有権センター稼働式
- ・平成11年 計量検査室を併設
- ・平成18年 知的所有権センターを（社）発明協会奈良県支部に事業移管
- ・平成25年 奈良県産業振興総合センターに改称
- ・平成28年 中期研究開発方針を策定
- ・平成29年 創立100年を迎える

○組織図

- ・創業支援部：経営支援課、商業・サービス産業課
- ・生活・産業技術研究部：研究支援室、機械・計測・エネルギーグループ、  
繊維・毛皮革・高分子グループ、バイオ・食品グループ、  
I o T推進グループ、計量検査室

○奈良新『都』づくり戦略 1栄える「都」をつくる

～奈良県経済の好循環を促し、働きやすく、就業しやすい奈良県にする～

地域経済活性化：起業支援、県内産業への研究支援強化、県産品の海外販路、国内販路の拡大、  
商業振興・商店街活性化

<質疑応答>

Q：ハードの面ではいろいろな研究設備があるが、一番は人間関係ではないか。難しいかもしれないが、会社との間で信頼関係を築いていく取組はあるのか。

A：研究開発をしてよいものを作っていくなどその中で人と人との関係性が必要になってくる。商業の支援は、いろいろな商談の場や販売の機会を提供させていただくプラットフォームを作るのがセンターの役割ではないかと考えている。センターで解決できないことは別の相談機関を紹介したり事業所の解決策を提供しながら、次のステップに進んでいただきたい。情報発信はいろいろなツールを使って、積極的にしたいと考えている。



## 川上さぶり（川上産吉野材販売促進協同組合）（吉野郡川上村東川758-1）

【調査目的】 貴組合及び事業の概要（川上さぶりについて）センターの運営状況について

【調査概要】 川上さぶりの概要説明を受け、質疑応答・施設見学を実施

＜説明の概要＞

### ○組合概要

- ・ 組合名：川上産吉野材販売促進協同組合（通称：川上さぶり）
- ・ 組合所在地：奈良県吉野郡川上村東川758-1
- ・ 設立年月日：平成11年10月12日
- ・ 事業：組合員の取り扱う木材製品の共同販売
- ・ 組合委員数：14名（森林組合含む）
- ・ 職員：専従役員2名、職員7名

### ○沿革

平成10年 3月	設立に向けて呼びかけ設立準備会
平成11年 4月	組合事務所を代表理事宅とする
平成11年10月	川上産吉野材販売促進協同組合設立 （事務所を川上村木材会館内に置く）
平成12年	林業構造改善推進事業にて川上さぶり木材加工センターを計画
平成13年 5月	認可申請
平成13年 6月	製品保管庫（300㎡）、作業棟（350㎡）、 乾燥機（1基）建物建設に着手
平成15年 3月	完成事務所を着手
平成15年10月	機械搬入・乾燥機1基設置
平成26年 2月	林業・木材業の再生会議の設立
平成27年	吉野かわかみ社中設立、メンバーとして参画する。
平成30年、平成31年	吉野かわかみ社中に係る「6次産業化施設整備」の施工
平成31年3月	製材棟、製材機棟の施設整備完了 上記施設の運用を開始

### ○川上さぶりについて

- ・ 当組合員のほとんどは、木材の素材業者であり、山林より搬出した木材を原木市場の競りにより販売を行ってきた。川上村では人工林の育成環境が非常によく、1級材の地位を保ちながら奈良県吉野木材協同組合連合会を通じて吉野材を販売してきたが、木造住宅の需要低迷等により、吉野材も低迷を続け、その出荷額及び単価の落ち込み等により自らの活路を切り開く必要に迫られてきた。そこで川上村の木材素材業者の若手の有志に係る課題に対応してゆくために平成11年10月に本組合を設立した。
- ・ 現在当組合では建築材を中心に工務店等への販売に努力しているが、今後、川上産吉野材を使用した木造住宅の一般消費者への需要開拓並びに流通経路の構築や木材製品の品質向上について研究し、その実現に取り組むところである。

